

# MINAMI TADA

特別展

## 多田美波

— 光の迷宮 —

1991年11月26日[火]—1992年1月26日[日]

開館時間—午前9時—午後5時(入館は4時30分まで)

休館日—12月2日(月)、8日(日)、9日(月)、16日(月)、24日(火)、25日(水)

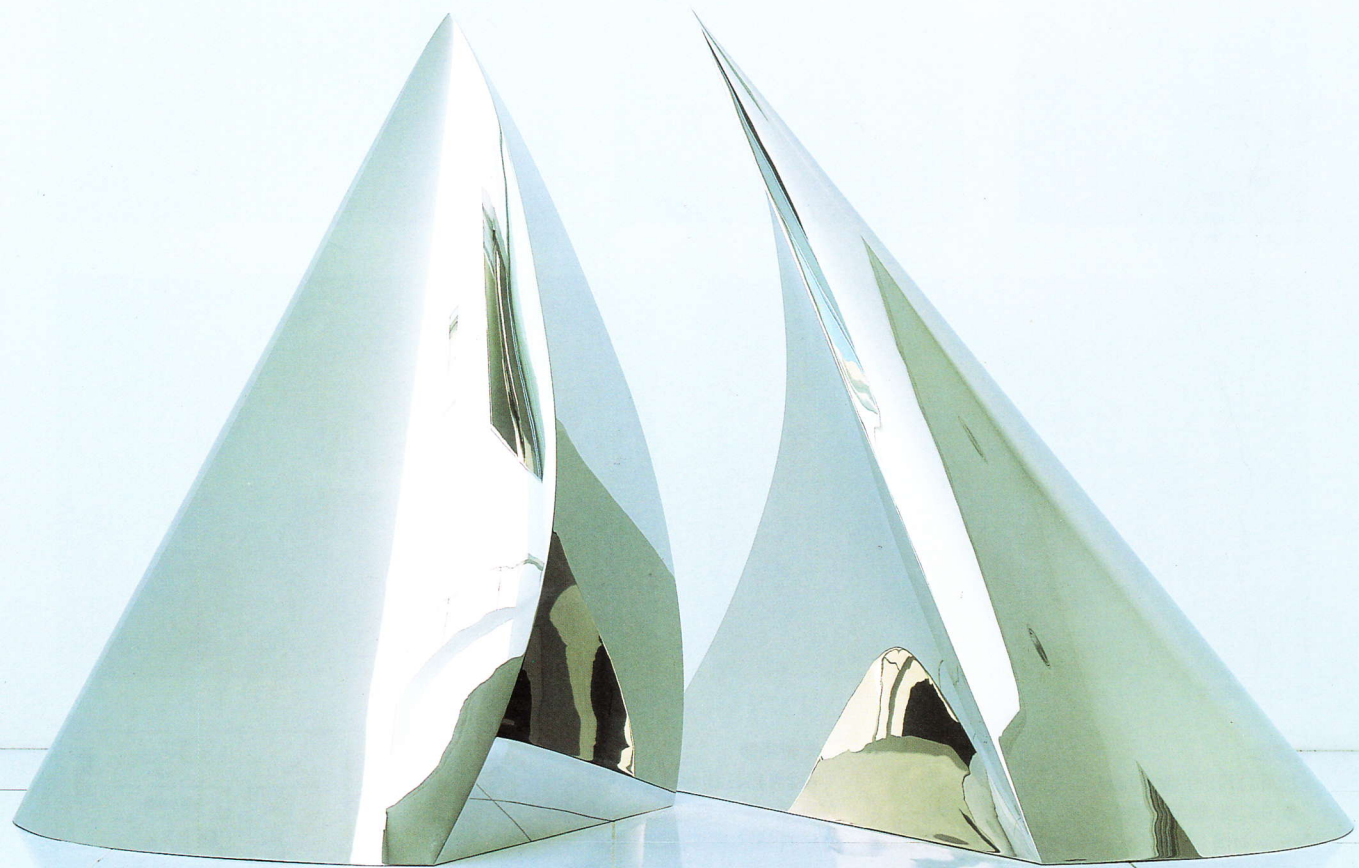
12月29日(日)—1月3日(金)、1月6日(月)、12日(日)、

13日(月)、16日(木)、20日(月)

主催—渋谷区立松濤美術館／三重県立美術館

入館料—一般200(160)円、小・中学生100(80)円 ( )内は20人以上の団体料金

### 渋谷区立松濤美術館



多田美波は、はじめ女子美術大学で油彩画を学びましたが、1944年の卒業後からは、立体的な表現に魅力を感じ彫刻を制作するようになります。そして、既成の概念にとらわれない表現を模索し、アルミニウム、ステンレス、アクリル、ガラスといった新しい素材をその制作に使うようになります。

1960年代から始まるお椀を伏せたような半球状の作品《周波数》シリーズは、歪められた鏡状の球面に周囲の風景を映し込んだ効果で空間と彫刻の関係を示すものとして、作者のその後の方向を決定付けた作品です。

1970年・80年代をとおして、宇部市の現代彫刻展や神戸市の須磨離宮公園彫刻展などの野外彫刻展に積極的に参加し、野外空間での彫刻の可能性を追求します。現代的な素材をシャープな感性で表現した作品は、数々の受賞を重ねるとともに、その独創性に高い評価を得ました。

《超空間》《Space Eye》などはアクリルを使用した作品で、風景を作品のなかから透かして見せながら、一方でまた現実と

は異なる変容された光景を作品の中に宿し、新しい視覚体験をもたらします。素材の特性を見事に引き出した例と言えます。

また、《時空》《極》などはステンレスを使い単純な形態のなかに都市空間の、そして自然界の森羅万象を反映させています。天空を指し示すような尖塔は空間のエネルギーを凝縮した形態でもあるのです。

多田美波の制作は、彫刻にとどまらず建築に関連した照明や壁面装飾など多様な制作にもおよんでいます。一貫して、風景＝光を媒介にした造形を展開し、反射や透過といった創作原理を内包しながら彫刻とそれをとりまく“環境”との在るべき関係を表現しています。

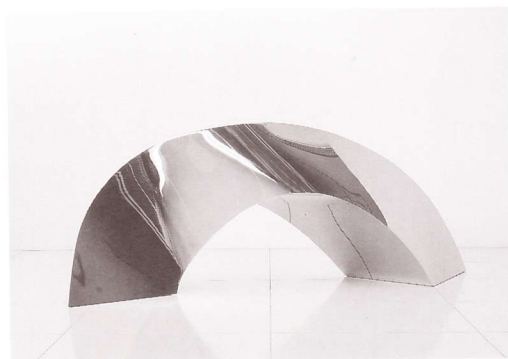
本展は、多彩な活動を展開する多田美波の作品のなかから彫刻作品に焦点をあて、初期のブロンズ作品から最新作までの30余点を中心に野外設置作品の写真パネルもあわせて展示し、その芸術を紹介しようとするものです。



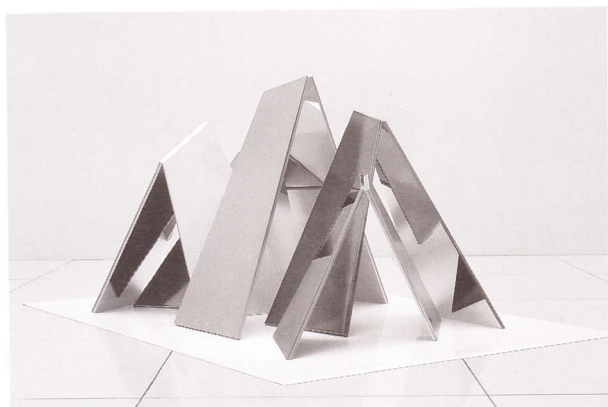
Space Eye No.3 1975年



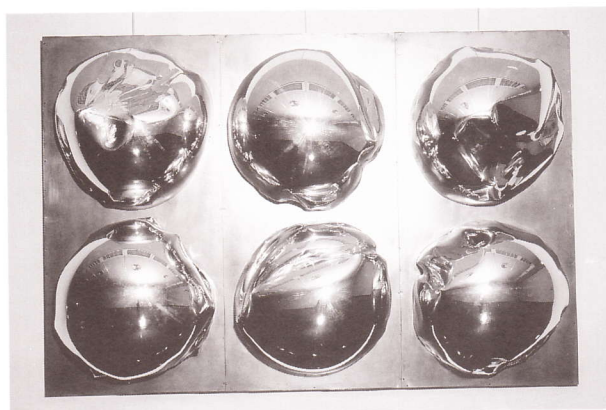
双極子 1986年



脹 91 1991年



Mirage 1989年



周波数37306505MC 1965年

#### 講演会

- 12月1日(日) 午後2時より  
「多田美波 彫刻を語る」  
講師＝対談 多田美波＋岡田隆彦(美術評論家)
- 12月7日(土) 午後2時より  
「造型と景観—多田美波の作品—」  
講師＝中原佑介(美術評論家)

#### 美術相談

- 12月15日(日) 午後2時～4時  
講師＝洋画 磯村敏之、遠藤原三
  - 1月15日(水) 午後2時～4時  
講師＝洋画 西嶋俊親、水彩画 大和屋巖
- #### 映画会
- 11月30日(土) 午後2時～3時  
「ギルバート&ジョージの世界」
  - 1月19日(日) 午後2時～3時  
「クリスト 制作中」

